

# 高卒就活支援へ奔走

県内の高校3年生の採用試験が、16日から始まる。三重労働局によると7月末現在の高校生求人倍率は0・66倍で、リーマン・ショックの影響が色濃かった昨年同期からさらに0・12倍下がった。強い逆風の中、高校や生徒は求人開拓や試験対策に力を入れている。  
(高浜行人)

## きょうから採用試験



担当者の指導を受けながら、部品の長さや幅などを検査する桑名工3年の安田祐基君。桑名市和泉の新日本工業

## レポート みえ

## 通学しながら半年間実習

8日、自動化設備開発会社「新日本工業」(桑名市和泉)の工場。県立桑名工業高校3年の安田祐基君(18)が「厚さはどうやって測るんですか」などと検査担当の服部良貴さん(41)に質問しながら、工業用ロボットの部品の規格をチェックしていた。午前9時から午後3時半まで、作業は一日中続いた。

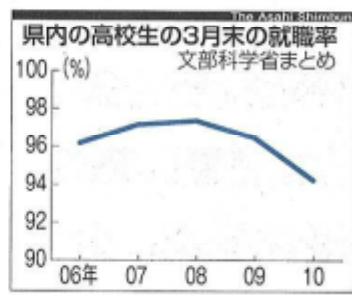
同校が6年前に採用した「デュアルシステム」では、2、3年生の希望者が約半年間、学校に通いながら週1日企業で実習する。現在、35人が18社で実習している。

進路指導主事の中辻正美教諭(56)は「継続的に仕事を体験することで、本人のアピールポイントにもなり、その企業に就職するケースもある。ここ数年続く内定率100%の原動力です」と話す。

だが、今年の同校への求人数は、例年の半分だった昨年さらに3割ほど減り、就職を希望する1255人に対して、桑名市やいなべ市などを中心に約450人と厳しい状

## 首都圏にも求人開拓

文部科学省のまとめによると、三重県の高校生の就職率は2009年3月末で96%を



超え、全国でも10番目だった。だが、その後の経済不況で求人数が激減。今年3月末で内定率は94・2%で、全国19番目に落ち込んだ。県教委高校教育室の加藤幸弘副室長は「エコカー減税が終わるなど、明るい材料はない。企業は見通しが立たず、今年の就職は昨年以上に厳しいのではないかと見

は、3年生96人中約60人が就職を希望しているのに対し、尾鷲市や熊野市、和歌山県新宮市などの地元の求人17人しかない。受け皿を確保しようとして、担当の教諭3人が5、6月に東京や大阪、名古屋、四日市の企業を回り、ようやく274人になった。進路指導担当の谷口久治教諭(62)は「求人は一昨年の3分の1に減り、大変厳しい。試験も倍率が上がるので、9月の試験で合格するのは7割しかないのではと心配しています」

況だ。高校生は9月末までの「1次採用」では1社しか受けることが出来ず、この時点で内定が出なければ10月以降にさらに狭い採用枠の中で戦いを強いられる。

中辻教諭は「これまでと違って「1次」で全員内定、というわけにはいかない。競争になるほど実習や面接練習などの準備が生きてるので、何と

## 実践形式の面接練習

県は今年度、約1300万円を投じ、求人開拓のスペシャリストとして企業OBら6人を「就労支援総合マネージャー」として委託し、県内の高校に配置した。

鈴鹿市を担当する吉川勝敏さん(66)は数社を訪問。パナソニック電工四日市(四日市市)で約20年間人事や総務を担当した経験を生かし、製

か年内に決まっしてほしい」。新日本工業の後藤大介専務(35)は「厳しい時期だからこそ、企業としてはより実践に近い経験をしている生徒を採用したい」と話す。安田君は、9月中に大手部品メーカーの採用試験を受ける。「競争が激しくて不安もありますが、これまでやったことを信じ前向きにやります」と話した。

造業や美容院など「飛び込み」も含めて企業を回った。「『ほしかったら募集してらわ』などと冷たくあしらわれることが多い。数撃ちや当たらないですが、『1次』の終わる10月以降が重要」。ハローワークと連携し、年度内は市内の企業への電話や訪問を続けるという。吉川さんが拠点とする県立

白子高校では、激化する就職試験に備えて対策を進める。十数回の面接練習や夏休みの筆記試験対策講座に加え、8月には就職情報誌の出版社から講師を10人ほど呼び、45人で集団面接の練習をした。杉生彰校長(55)は「より実践に近い形で緊張感を高め、慣れさせる」と話す。

だが、3年生2555人のうちの就職希望者64人に対し、求人数は313人で、08年度の456人から100人以上減った。昨年度は2月ごろまで就職先が決まらない生徒や、進路が決まらないまま卒業した生徒もいた。今年度はさらに厳しくなるとい

黒木雄輔君(18)は「不安はありますが、今考えてもしようがない」。藤田麗香さん(18)は「なんとか就職して親を助きたいです」と本番を見据えた。